

"産業の頭脳"を和歌山へ

緑と水辺。豊かな自然に包まれた新しいタイプの工業団地「海南インテリジェントパーク」の造成工事が一月二十八日、海南市大野中の丘陵地で始まりました。

日本の産業構造の大きな変化の中で、最近は研究所やソフトウェア業などいわゆる「産業の頭脳部門」の重要性がより強く叫ばれています。

和歌山県にとってもこの部門の充実は大きな課題で、その拠点になるのが海南インテリジェントパークです。従来の企業団地とはイメージを異にして、ここには公園や散策路、また隣には住宅関連用地も確保して「職・住・遊」がバランスよく調和した街づくりをすめています。

面積二十㌶の敷地内には、研究所やソフトウェア業のほか、デザイン業、情報サービス業を重点的に導入、計画では約三千人の就業を



みなと大橋が開通

一月三十一日、紀の川の最下流に紀の川河口大橋（愛称「みなと大橋」）が完成、供用を開始します。

このほど完成したみなと大橋は延長七〇〇㍍（うち橋長五二一・三㍍）、紀の川をまたいて和歌山市青岸地区と湊地区を結んでいます。

この橋は、近年交通量の著しい紀の川大橋や北島橋のバイパスとして、市街地の交通緩和の役割を担っています。また、このあたりは特定重要港湾にも指定されている和歌山下津港内に位置し、多くの工場や貯木場、中央市場などもあることから国道二六号を通じて大阪湾岸方面などに通じる新しい産業道路としても大きな期待が集まっています。

総事業費は三十三億円。一部有料道路事業として実施したため、通行には普通車百円等が必要です。

料金表

車種	普通車	大型 I	大型 II	軽車両等
料金	100円	150円	350円	10円



コスマモパーク加太建設へ

昨年十二月十三日午前八時三十分、強い潮風の中、関係者の万歳三唱に汽笛で応えながら、土砂搬出船の最終船が大川桟橋を離れていきます。「終わつたね。おめでとう

互いに笑顔で握手する作業員の皆さんのお姿が桟橋のあちこちで見られました。

関西国際空港の埋め立てのため、和歌山市加太地区からの土砂搬出が開始されたのは平成元年五月以来、二年七月の期間をかけた搬出作業が完了しました。これまでも搬出された土砂は東京ドームの五十二倍の容量にある六、四三〇万立方㍍。土砂は、大阪府阪南市や淡路島からも搬出されていますが、加太からの土量は空港埋め立てに必要な量の約四割を占めます。

土砂採取地には広大な跡地が出現在しています。跡地を含めた約二六〇㌶の土地を整備し、住宅施設、リゾート施設、研究開発施設など新しい時代の都市機能を持つた「コスマモパーク加太」の建設がこれから進みます。

予定しています。平成五年度末には造成を終え、分譲を開始することになっています。

和歌山リサーチラボは昨年、海南市日方に準備事務所を開設。すでに業務を開始しています。

成するよう工事を進めていきます。





頑張れ! 僕らの“コンテナ運ぶ象号”

設計図とにらめっこしながら、何やら熱心に作業をしているのは紀北工業高校コンピュータクラブの皆さんです。目前に迫った「ロボットコンクール」にむけて“コンテナ運ぶ象号”の制作も最後の追いこみに入りました。

このロボットコンクールは今月十六日、和歌山市紀三井寺の地場産業振興センターで行われるもので、高校生や社会人が自ら製作したりモコンロボットによって、みかん用コンテナをどれだけ高く積み上げるかを競います。

大会には、このほか和歌山工業高校の“力二衛門号”など十六チームが参加、皆さんも会場でぜひご声援ください。

くわしくは県庁産地振興課へ



グリーンピアが充実

大規模年金保養基地「グリーンピア南紀」をご存知でしょうか。那智勝浦町・太地町にまたがる広大な敷地の本格的リゾート基地として、多くの皆さんに利用されています。

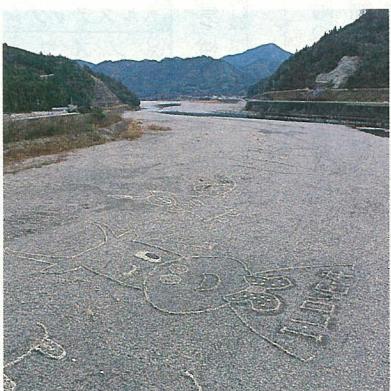
年間の利用者数は約10万人。ホテルやコテージといった宿泊施設のほかに、テニスコート、プール、野球場などのスポーツ施設も設けられ、保養、キャンプ、スポーツなど利用者の目的も様々です。

そしてもっと多くの皆さんに使っていただこうと、現在、施設の増築工事が進行中。ホテルの洋室20室とレストランが増設されます。

新施設は今月末にはオープン予定。さわやかな潮風と緑のなかで春のリゾートを思いっきり楽しんでください。

グリーンピア南紀☎(07355)2-3500

(那智勝浦町)



河原に“ビッグアート”

本宮町の国道168号を車で走る際には、道沿いの河原を注意して見てください。

牛やうさぎや花など、かわいいけれどどつでもつかい絵が河原に描かれています。これは、昨年末、町内有志のグループにより企画されたイベント「熊野川ビッグアート」の作

品で、当日、家族連れや高校生グループ約五十人が参加。本宮大社の少し下流の備崎橋付近で、河原の石を拾い集め十組の自由作品が作られました。遠くからでは分かりませんが、近くに寄るとかなり大きな石が並べられています。車を止めてご覧ください。

(本宮町)

0500へ
(中辺路町)

ビデオは一本一五〇〇円(送料三六〇円)。くわしくは中辺路町役場観光室☎(0739)64-

○ 緑の谷間に新名所

緑の山あいに出現した大きな卵……?。これは中津村が同村高津尾に建設中の「ふれあいドーム」です。丸味を帯びた柱がどこかギリシャの神殿のように見えるこのドームは、鉄骨テント張りで広さ約千平方㍍、高さも最高部で約14㍍という巨大なもの。内部には、ステージなども設けられ、コンサート会場やバーベキューレストランなど様々な用途に利用されることになっています。

またドーム近くには若者広場やテニスコートも整備されており、すぐ横を流れる日高川での釣りやキャンプなど家族連れで楽しめます。現在、附帯工事中のため、オープンは3月28日の予定です。

(中津村)



「ゆめスタンド」から 未来を見よう

平成7年春の開通をめざして急ピッチで工事が進む湯浅御坊道路。インターチェンジが設けられる川辺町中津川の丘陵地に、このほど工事現場の様子が見渡せる「川辺ゆめスタンド」が完成しました。この見晴台からは、工事が進行中の白馬トンネル、玄子トンネル、川辺インターチェンジなどが一望でき、一般の人も気軽に見学できます。

湯浅御坊道路が開通すれば、和歌山一御坊間は車で約40分。このスタンドからは工事現場だけでなく紀南の未来、21世紀の和歌山も見えてきそうです。

見学希望の方は近畿地建の紀南工事事務所☎(0738)52-0923へ
(川辺町)

なかへちを
見てください



遅れてきた連歌師

シリーズ70

飯尾

宗祇

そつぎ



昨年末、吉備町は岐阜県の三つの町を招きひとつの会議を開催した。町はそれぞれ室町時代の連歌師、宗祇ゆかりの地でありながらも吉備町は宗祇の生誕地といわれている。「宗祇談義」と名付けられたこの会議で、四つの町の代表は今まで知られていない宗祇の業績をどうやって世間に広めていくかを熱心に話し合った。

飯尾宗祇、応永二十八年(1421)猿樂師の家に生れ、若くから禪宗の僧となり修行を積んだ。修行のかたわら俳句をつくっていたが、当時は連歌の全盛期であり、歌人をめざした宗祇は連歌師として名の通っていた叔父を頼って京都に出た。その頃すでに三十歳。「十年遅い。連歌の習得には少なくとも二十年はかかる」と叔父に言われ、それなら昼夜を問わず十年間頑張ればと、「遅れてきた連歌師」は猛勉強を続ける。同時に源氏物語や古今集の研究にも励み、文学者としての素養も身につけていった。

長享二年(1488)、六十七歳で傑作といわれる「水無瀬三吟百韻」を完成、同時に京都連歌会所奉行に就く。歌人として名が広まるにつれ地方への旅行が増えた。都の最新の状況を知りたがる地方豪族が連歌会を催し、京都の歌人を招くのである。明応四年(1495)、この経験を生かし各地の歌人の歌を集め「新撰菟玖波集」を完成、連歌界に不動の地位を築いた。

文亀二年(1502)、八十二歳で没。

十年後には宗祇没後五百周年を迎える。「宗祇談義」では、ゆかりのある他の自治体に呼びかけ全国規模で「宗祇おこし」をすすめていくことで一致した。

長亨二年(1488)、六十七歳で傑作といわれる「水無瀬三吟百韻」を完成、同時に京都連歌会所奉行に就く。歌人として名が広まるにつれ地方への旅行が増えた。都の最新の状況を知りたがる地方豪族が連歌会を催し、京都の歌人を招くのである。明応四年(1495)、この経験を生かし各地の歌人の歌を集め「新撰菟玖波集」を完成、連歌界に不動の地位を築いた。

文亀二年(1502)、八十二歳で没。

読者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。そして、入試をまだかに控えた受験生の皆さんにはラストスパート、最後まで自分の力を信じて健闘を祈ります。風邪などひかぬように……。

あと
がき

2月、一年中で最も寒い季節です。正月気分もすっかり抜け、年度末も近づき何とか慌ただしい今日この頃です。

大会には、このほか和歌山工業高校の“力二衛門号”など十六チームが参加、皆さんも会場でぜひご声援ください。

くわしくは県庁産地振興課へ

いのちとの知識